令和５年度　三重短期大学　学校推薦型選抜・社会人特別選抜（生活）　小論文　解答例

問題一　（180字以内）

欧州の人々は、子どもの頃から弁論術を訓練させられると同時に、人の弁論に対してもクリティカルな鑑識眼を備えていて、政治家のような立場にいる人間の言葉にはとても批判的であるから。なので民衆を混乱させる大きな問題が起きたときには、「果たして自分たちのリーダーには混乱する民衆を落ち着かせ、激励する能力があるのか」と見極めようとする批判精神も、相当厳しいため。（176字）

問題二　（100字以内）

日本で以前、憲法９条改正に反対するデモがあったときに、デモに参加したある主婦がママ友のＬＩＮＥグループから外され、絶交状態になるようなことがあり、子どもにまでその影響が及んだことがあるため。（95字）

問題三　（400字以内）

【その１】

筆者の思いは非常に重要であると考える。イタリアでは、子どものころから<u>**政治**</u>について言葉をかぶせあって<u>**議論**</u>するのが日常茶飯事なため、政治を自分事として考える基本姿勢が自然と培われている。ところが、日本の<u>**民主主義**</u>が未成熟かつ稚拙であることは国会中継を見ても明らかで、質問と答えがかみ合っておらず、結論を出すこと・議論することから逃げている。他者の意見や指摘に真摯に向き合っていないため、民衆の多くが政治や<u>**選挙**</u>に興味・関心を持てなくなるのは当たり前で、言われたことに従えばいいとなってしまい疑うことを否定するようになる。筆者の指摘する「参加者の弁論力」の違いによって、日本では民主主義が育っていないといわざるを得ない。この状況を改めるのは非常に困難であるが、同調圧力のような空気で民意を形成する不毛さは今回のコロナ禍で私たちは経験している。同じ過ちを繰り返すのか政治家も民衆も試されているのである。（395字）

【その２】

筆者の思いは非常に重要であるがかなり困難であるとも思う。私は、日本は協調性を高めて目標に向かって進んでいくのが得意な国民性だと思う。これは価値観の共有なので異なった価値観を有している人への居心地の悪さをもたらす。多数決の論理でみんなと歩調を合わせざるを得ず、自分の考えを封じ「これでよかったのだ」と言い聞かせるしかない。この奥ゆかしさこそが美徳とされているが、日本の<u>**政治**</u>はこれを逆手にとっているといえるのではないか。あいまいな決着で問題を先送りし失敗も認めない。失敗を認めない以上、事後の検証もしないので時間と税金の浪費を繰り返す。その結果、<u>**民主主義**</u>の根幹を十分に育てられず民衆を無気力化させているのである。時間がかかっても、諸外国のように生身の言葉を闘わせる民主主義を身に付けなければいけないことは理解できる。しかし、日本の政治にそれを期待するのは途方もなく無謀であるというのが私の本音である。（398字）

【その３】

筆者の思いは理解できるが私は日本の<u>**政治**</u>に何も期待していない。私は日本のシステムとしての<u>**民主主義**</u>は限界だと思う。国会議員をはじめ県や市の議員は世襲が多い傾向にある。<u>**選挙**</u>に勝つために必要な組織力、知名度、選挙資金などを親から引き継いで当選するのでその地位に長らくとどまりやすく、欧州のような弁論術に根差した有権者の審判を受けにくい。だから「民衆の苦しみを理解できない人」が政治家になってしまい議員の座にとどまることが目的化している。人口構成がいびつなので若者の投票率が上がっても何も変わらないのではないか。だから日本では子どもの頃から弁論力を鍛えたとしても前進するとは思えない。最近では、選挙はくじ引きで行い政策はＡＩ（人工知能）を活用すれば汚職や不正を根絶でき、しがらみにとらわれることもないという識者もいる。これぐらいの荒療治をしなければ日本の民主主義が変わることはないと思う次第である。（394字）